

七日に、すめらみこと 天皇・おほきすめらみこと 太上天皇・おほきさき 皇太后、ひむがし 東の
つねのみや 常宮の南大殿に在して肆宴しえんしたまふ歌一首

四三〇一番

印南野の いなみの 赤ら柏は あかがしは 時はあれど とき 君を我が思ふ きみあも
時はさねなし とき

三月十九日に、やかもち 家持の庄の門の槻樹の下にし しやうかどつきのみきもと
て宴飲する歌二首 えんいんうた

四三〇二番

山吹は やまぶき 撫でつつ生ほさむ な ありつつも お 君来ま きみき
しつつ かざしたりけり

四三〇三番

我が背子が わがせこ やどの山吹 やまぶき 咲きてあらば さ 止まず や
通はむ かよ いや年のはに とし